

子ども・教育フォーラム

▽目的

次代を担う子どもたちの健全な心と主体性を育てるとともに、小平に関心をもってもらう。

▽主催

小平市教育委員会

▽協力

北多摩北地区保護司会小平分区、小平市更生保護女性会、東京小平ロータリークラブ

▽事業概要

毎年実施している「中学校生徒意見発表会」に小学生を加え、「これからの小平」をテーマに、小・中学生の混成グループによる発表を行った。また、小学生を対象とした二つのコンクールの表彰式を併せて行った。

▽実施日

平成 24 年 12 月 9 日（日）

▽場所

ルネこだいら中ホール

▽来場者数

450 人

▽実施状況

● 第 1 部 表彰式

- ・「第 4 回児童絵画コンクール『だいすきなまち小平市！』」表彰状授与：受賞者 14 人
- ・「調べて学ぼう！こだいらっこコンクール」表彰状授与：受賞者 18 人

また、当日、ルネこだいら内で作品展を行い、子どもたちの生き生きとした作品が会場を華やかに彩った。



子ども教育フォーラムのポスタ



児童絵画コンクール表彰式の様子



児童絵画コンクール作品展



こだいらっこコンクール表彰式の様子



こだいらっこコンクール作品展示

● 第2部 小・中学生による意見発表「これからの小平」

市立小学校6年生と中学校2年生の代表者 28 人が8つの中学校区ごとにグループを組み、「これからの小平」をテーマに意見発表を行った。また、司会や当日の舞台セッティングなどの運営は、各中学校の生徒会役員が担当した。

<発表順>

- ・小平第六中学校区 「温かい街～小平～」
- ・小平第一中学校区 安全のあり方は「心のあり方」
- ・小平第五中学校区 これからの小平
- ・花小金井南中学校区 小平市の未来
- ・小平第四中学校区 時間
- ・小平第三中学校区 つながりのある小平へ お年寄りとのつながり
- ・上水中学校区 フィリピンの子どもたち
- ・小平第二中学校区 犯罪をなくして平和な街に



グループ発表の様子



スライドでの提案内容

今回は、市制施行50周年記念事業として、例年実施していた「中学校生徒意見発表会」を拡大して「子ども教育・フォーラム」をすることとなった。

拡大した内容としては、一点目は、中学生だけではなく、小学校6年生の代表が発表に加わったこと、二点目として、個人の発表ではなく、中学校区ごとの小・中学生のグループによる発表としたこと、三点目として、中学校全校の生徒会役員による運営形式としたことが挙げられる。

発表した子どもたちは、グループごとに、意見交換や学級アンケートや商店街への取材などのグループワークを通じて、小平市の現状や将来について問題点を明らかにし、本番の発表に向けて、学校の協力のもと数ヶ月にわたり準備を重ねた。8つのグループの発表は、それぞれに特色があり、市政への具体的な提言、国際的な視野をもった内容など、将来に向けて希望がもてるような提案が発表され、来場者は子どもたちの熱い思いや決意に耳を傾けていた。



意見発表に参加した児童、生徒



市役所での中間発表会の様子

また、司会や運営担当をした各中学校の生徒会役員の 8 人の生徒は、互いに協力をしながら、自分たちで当日の役割分担を決め、準備を進めた。当日の開会と閉会の立派なあいさつは、代表生徒自身が考えたものであり、子どもの力を感じとることができるものだった。



運営を担当した中学生



本番に向けての打合せの様子

【生徒会代表あいさつ】

これからの小平を担う、私たち小・中学生にとって様々な考え方や意見に接する機会が得られたのではないかと思います。みなさん一人一人の意見や提案が、より良い小平に変えるきっかけになれば、私たちにも国や社会のあり方を変える力があるという確信につながるでしょう。

私たちの意見を少しでもこれからの市政に生かしていただけるよう、これからも小平のことを考えていきます。このフォーラムでは「これからの小平」についての様々な意見が出されました。私には思いつかないような意見がたくさんあり、大変勉強になりました。私たち一人一人が小平に関心を持ち、明るい社会を築いていこうと改めて思うことができました。

▽成果

今回の「子ども教育・フォーラム」は、つくる側、見る側双方に新たな発見をもたらし、子どもたちをはじめ、関係者には大きな達成感を与え、来場者からも「小学生が参加することによって中学生の意見に深まりが出た」、「共通テーマでも視点は様々で、また、発表スタイルも違って楽しめた」などの高い評価をいただくことができた。

さらに、「子ども・学校が中心になって、人と人を、人とまちをつなぎ、未来へとつなぐ」という子どもたちからのメッセージをもらうことができ、平成 25 年 2 月策定の「小平市教育振興基本計画」の基本理念にその趣旨を生かすことができた。

▽事業費

457,246 円

調べて学ぼう！こだいらっこコンクール

▽目的

小平市に対する関心を高め、愛着心を深めるとともに、小学生による図書館資料の活用を高める。

▽主催

小平市教育委員会

▽協力

小平市子ども文庫連絡協議会

▽事業概要

小平市立図書館の資料を使った「調べ学習」の作品の募集、入賞作品の表彰、展示

▽応募資格

小平市内在住・在学の小学生（3年生以上）

▽募集期間

平成24年7月1日（日）～9月15日（土）

▽募集作品（下記の中から選択）

- ・玉川上水（小平の自然含む）
- ・ブルーベリー
- ・小平タイムトラベル～過去、現在、そして未来へ～

▽応募作品数

- ・3・4年生の部：7点
- ・5・6年生の部：86点 計93点

▽入賞作品

18点

3・4年生の部（最優秀作品賞：1点、優秀作品賞：1点、奨励賞：1点）

5・6年生の部（最優秀作品賞：1点、優秀作品賞：5点、奨励賞：9点）



コンクールの募集ポスター



3・4年生の部 最優秀賞
「小平時空散歩」



5・6年生の部 最優秀賞
「こだいら 未・今・昔 物語」

▽表彰式等

平成 24 年 12 月 9 日（日）にルネこだいらで行われた市制施行 50 周年記念事業の「子ども・教育フォーラム」の中で表彰式を行うとともに、入賞作品を同会場で展示した。また、12 月 11 日から 27 日の間、中央図書館においても同作品の展示を行った。



こだいらっこコンクール受賞者
(表彰式出席者)の皆さん

▽成果

応募作品は、どのテーマにおいても、図書館の資料をもとに、丁寧に調べている作品が多く見られた。特に受賞者の作品は、一つの資料だけではなく、多くの資料を見比べて自分の考えがまとめられており、主体的に学ぶ意欲を十分に読み取ることができるものであった。

最優秀作品賞を受賞した作品はともに、「小平タイムトラベル」をテーマに、小平が村から町へ、町から市へと移り変わる軌跡を、実地調査などを踏まえ丹念に調べられたものであった。また、「玉川上水」や「ブルーベリー」をテーマとした作品においても、市報こだいらや小平市発行のパンフレットなど幅広い資料を活用し、まとめ方も工夫されていた。作品には、子どもたちの見つけた“小平の魅力”がよく表現され、展示会場では、来場者たちが興味深く子どもたちの作品を観覧する様子が見られた。

また、応募した子どもから、「家族で小平のことを知る良い機会になった。」との声が寄せられ、今回のコンクールを通して、図書館の資料の活用のしかたを学ぶとともに、市への関心や愛着を深めてもらうことにつながったと考えられる。今後も図書館を活用して、子どもたちが自分の興味や関心を発展させ、主体的な学習を進められることができるようわかりやすい資料整備に努めるとともに、学校図書館との連携を推進する。



作品展示の様子

▽事業費

42,618 円

第4回児童絵画コンクール

▽目的

次世代を担う子どもたちに、小平の魅力を発見し、関心をもってもらうことを目的とする。

▽主催

小平市、公益財団法人小平市文化振興財団

▽後援

小平市教育委員会、小平美術会

▽協力

武蔵野美術大学

▽事業概要

小平市の風景を描いた絵画の募集、入賞作品の表彰、応募作品の展示

▽応募資格

小学生

▽募集期間

平成24年9月1日（土）～9月30日（日）

▽募集テーマ

「だいすきなまち小平市！」をテーマとして、小平市の自然、歴史、文化、暮らしなどの風景を描いた絵画

▽応募作品数

257点（前年度比約3倍）

▽入賞作品

14点（最優秀賞：1点、優秀賞：2点、佳作3点、努力賞8点）



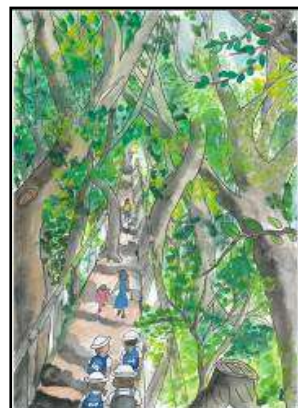
コンクールの募集ポスター



最優秀賞 ザリガニのいる川



優秀賞 ふるさと村でのカルタ大会



優秀賞 玉川上水の小平グリーンロード

▽表彰式

平成 24 年 12 月 9 日（日）にルネこだいらで行われた市制施行 50 周年記念事業の「子ども・教育フォーラム」の中で表彰式を行った。



児童絵画コンクール受賞者の皆さん

▽作品展

- 第 1 回作品展：平成 24 年 11 月 3 日（土）～12 月 9 日（日）
ルネこだいら 1 階情報ロビー
全応募作品 257 点の展示
- 第 2 回作品展：平成 25 年 1 月 8 日（火）～30 日（水）
市役所 1 階展示スペース
受賞作品 14 点の展示



ルネこだいらでの作品展

▽成果

例年、公益財団法人小平市文化振興財団で開催している児童絵画コンクールを、今年は市と小平市文化振興財団の共催で、市制施行 50 周年記念事業として実施した。記念事業ということもあり、例年の約 3 倍ほどの 246 人から 257 点にもものぼる応募があった。どの作品も、子どもたちの生き生きとした視点で小平の姿が描かれていて、小平のまちをよく観察していることが伺えるものだった。今後も、子どもたちに絵を通して、小平に興味や関心をもち、親しみを感じてもらうことが期待されるものとなった。

▽事業費

268,284 円

タイムカプセル「10年後の大切な人への手紙」

▽目的

家族間の絆を深めると同時に、「丸いポストのまち こだいら」への愛着を育む。

▽主催

小平市、自治総合センター

▽事業概要

平成24年度に10歳を迎える子どもの保護者から10年後の子どもに向けて書いた手紙を募集し、タイムカプセルに入れ、ルネこだいら前にある日本一丸ポストの中に投函した。このタイムカプセルは日本一丸ポスト内で保管され、10年後に子どもが成人式を迎える年に取り出し、開封する。

▽実施日時

平成24年10月20日（土）午後3時30分～午後4時

▽場所

ルネこだいら前広場（日本一丸ポスト前）

▽対象者

平成14年4月2日から平成15年4月1日までに生まれた子どもとその保護者

▽参加者数

39組



タイムカプセルに手紙を投函



タイムカプセルの日本一丸ポストへの投函

▽成果

「丸いポストのまち こだいら」の魅力を活かした取組として、日本一丸ポストの頭頂部の空きスペースを初めて活用し、将来を担う子どもたちへ希望を託す市民参加型のイベントを実施した。参加した保護者からは、「小平市のシンボルである丸ポストを使用したイベントで面白い。」、「子どもが20歳になった時の様子を想像すると胸が高鳴る。」、「10年後にも是非この投函者全員が揃って、開封作業を実施して欲しい。」、「小平市で育った事を、誇りに感じて欲しい。」といった声が寄せられた。

また、「日本一の丸ポスト」が設置から満3年を迎えることから、丸ポストの3歳の誕生を記念して「日本一丸ポスト愛好会」の方により、ポストに手作りのお祝い服が着付けられた。タイムカプセルを入れ、千歳飴を持ち3歳に変身したポスト前で、参加者たちが記念撮影を楽しんでいた様子からも、丸ポストが息づくまちの魅力の発信につながったと考えられる。

10年後に成人を迎える子どもたちが、10年前に保護者の書いた手紙を読んで、どんなことを感じるのでしょうか、10年後の開封作業さらには、10年後の未来に踏み出すことが期待できるイベントとなった。

▽事業費

162,750円



開封は10年後の子どもが成人式を迎える年



丸ポスト3周年と3歳の誕生日を記念して

児童館イベント

児童館では、花小金井南児童館と小川町二丁目児童館で、各種イベントやシンポジウムを開催するとともに、平成25年3月に開館した小川町一丁目児童館の開館に合わせ、オープニングイベントを実施した。

1 花小金井南児童館イベント 「小平市の未来に向かって夢を揚げよう」

▽目的

凧作りを通して、一人ひとりが自分自身や小平市の過去・現在を見つめ直し、これからの未来を考えるきっかけを作るとともに、凧作りから凧揚げまで多くの方に関わってもらい多世代の交流を深める。

▽主催者

小平市

▽指導

行橋 智彦さん

(凧揚げ名人：「RAINBOW JAPAN～日本列島に、未来号でメッセージを描くプロジェクト」)

▽事業概要

連凧づくりワークショップ、連凧揚げ大会及び芋煮会を実施した。

● 連凧づくりワークショップ

カラーポリに竹ひごをつけ、夢・希望・願いを描く作業を確認しながら、参加者各々が1枚の凧を完成させた。そして、作成した約300枚のそれぞれの凧を凧糸で繋げ連凧に仕上げた。

- ・実施日：平成24年10月10日（土）、10月24日（水）
- ・場所：花小金井南児童館
- ・参加者数：約300人



連凧作りワークショップの様子

● 連凧揚げ大会と芋煮会

都立小金井公園で「未来龍小平大空凧・連凧揚げ大会」を実施した。また、大会実施後に花小金井南児童館に移動し、市内在住の管理栄養士・調理師であるボランティアの方により、小平市の地場野菜で作った芋煮を食べた。

- ・実施日：平成24年12月8日（土）
- ・場所：都立小金井公園、花小金井南児童館
- ・参加者数：約200人



天気にも恵まれ青空に300の夢・希望・願いが空を舞った。参加した子どもたち約200人と一緒に連凧揚げを行った。連凧があがると一斉に歓声があがった。



連凧揚げ大会の様子(都立小金井公園)

▽成果

連凧づくりワークショップでは、子どもからは「凧を自分で作ることができて楽しかった。」、また、乳幼児の保護者からは「夢や希望も描くというのはとても素敵。」「連凧がどういうものなのか早く見たい。」「みんなで一緒に作れて良かった。凧揚げ楽しみ。」などの声が寄せられた。

連凧揚げ大会当日は、天気にも恵まれ、青空に300の夢・希望・願いが空を舞い、小平の明るい未来を期待した。参加してくれた子ども達約200人と一緒に連凧揚げを行い、連凧が揚がると一斉に歓声があがった。連凧揚げを実際に体験した参加者からは、「300もの連凧を揚げるのは重かった。」「自分の凧をみつけた。うれしい。」「噂を聞いてきたが、こんなにすごいとは思わなかった。」など、好評だった。また、協力していただいた地域の方からも、参加できてよかったという言葉が寄せられた。



連凧揚げ大会後の芋煮会の様子

2 小川町二丁目児童館イベント 50年前のあそびマップ作り ～あの頃二丁目のまちかどで～

▽目的

- ・あそびマップ作りを子どもと地域住民が一緒に行うことで、子どもをとりまく社会環境を見直し、これからの地域のあり方を考える契機とする。
- ・50年の時代の移り変わりの中で、どのように子どもの遊びが変化してきたのかを調べ広く発表する。
- ・各世代からの聞き取り調査から、遊ばれなくなった遊びを発掘し、今の子どもたちに伝承することで、あそびを通じた多世代の交流を行う。

▽主催

小平市

▽協力

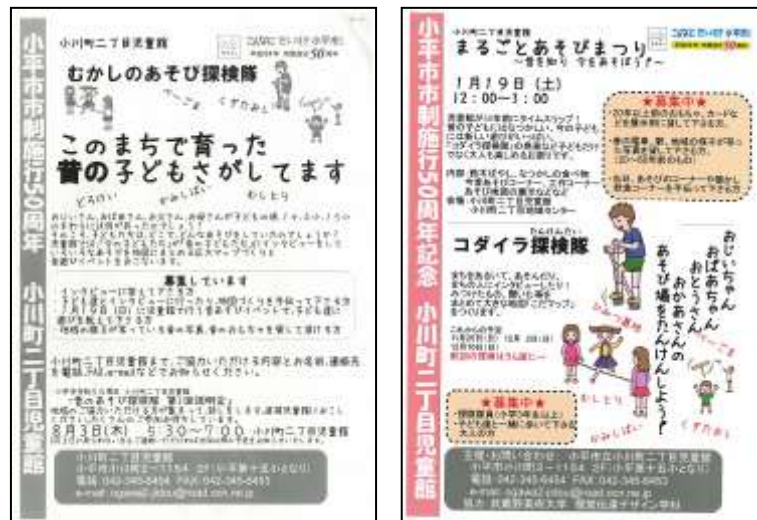
武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科

▽事業概要

この事業は、地域の大人と子どもと多くの方に参加をしてもらうために、平成25年1月19日のイベント「まるごとあそびまつり」に向けて、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科の学生と連携し、約7か月間かけて、地域の方への聞き取り調査(地域あそび調査)、健全育成団体との意見交換や協力要請、さらには子ども対象のワークショップを行った。

● 地域あそび調査

50年前に小平で行われていたあそびを地域住民から聞き取り調査し、現在との環境の違い、子どもの生活の変化などを調べるとともに、地域の大人から今の子どもに対する問題意識を聞き取った。また、聞き取った内容を、子ども対象のワークショップの中で活用し、子どもたちに、小平の歴史や暮らし、あそびを紹介した。



地域の方へ協力を呼びかけるチラシ

● コダイラ探検隊ワークショップ

コダイラ探検隊に応募した子どもたちが、武蔵野美術大学の学生とともに、地域の方へのインタビューや、地域を実際に歩いて、昔の遊びや生活の様子など調べたことを「あそびマップ」として大きな立体地図にまとめた。

また、地域の方にも、インタビューに協力していただいたほか、子どもと一緒に探検に同行し、昔の写真やおもちゃを提供していただいた。



コダイラ探検隊募集のチラシ

- ・探検隊活動日：10月14日、11月11日、11月25日、12月2日、12月16日、1月19日
- ・探検隊の参加者数：登録22人、のべ参加者50人
- ・実施状況

参加した子どもたちが、地域の方から小平の昔の話を聞くうちに、自主的に家族などから子どもの頃の遊びを聞いて調べるなど、小平のことについて関心を深めていることが伺えた。また、大学生からは、「あそびを通して、小平の様々な面を知ることができた。今後も継続していきたい活動だと感じた」などの声が寄せられた。



完成した「あそびマップ」

● まるごとあそびまつり

コダイラ探検隊が作成した「あそびマップ」の展示や活動発表のほか、実際に昔の遊びや暮らしを体験できるお祭りを開催した。

- ・実施日：平成25年1月19日（土）
- ・場所：小川町二丁目児童館他
- ・来場者数：390人
- ・ボランティアスタッフ：77人
- ・実施状況



ブーメラン作りの様子

◇ステージ

「鈴木ばやし」の披露、昔懐かしい「紙芝居」の公演

◇展示

「あそびマップ」の展示、コダイラ探検隊記録映像上映、コダイラ探検隊体験コーナー、スタンプラリー、未来の小平ボード

◇あそびコーナー

めんこ、こま、竹馬、竹ぼっくり、けん玉、おてだま、まりつき

◇工作コーナー

ブーメラン作り、凧作り、竹トンボづくり、着せ替え紙人形づくり、メンコづくり

◇飲食コーナー

すいとんで小平の味を表現、ベビーカステラ、駄菓子三角くじ

▽成果

子どもから父母、さらには祖父母世代にまで参加を呼びかけたところ、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方が来館し、多世代が同じ遊びを通じて楽しみながら交流をしている様子が多く見られた。また、コダイラ探検隊によるあそびマップの発表では、子ども達がマイクで、今までのワークショップでやってきた事を発表し、大人からの質問にもしっかりと答えていた。参加者からは、「子ども達のキラキラ輝く瞳が印象的だった。」、「あの空間で生まれた人同士のやり取り、関係が最大の成果だった。」などの感想が寄せられた。50年前にタイムスリップした児童館でのひと時を、展示、鈴木ばやし、あそび、人との交流を通じて、小平の歩んできた50年を多くの方に感じていただくことができたと思う。



ベীগまを教えてもらう子ども



みんなで一緒にあやとり

3 「子育て・子育てシンポジウム」～まちぐるみの子育てって？子育てって？～

▽目的

これからの小平市を担う子どもたちの育ちを考えることで、横のつながりをつくり、明るく元気な小平市を目指す。

▽主催

小平市

▽共催

白梅学園大学・短期大学、小平西地区地域ネットワーク、白梅子育て広場G P学生委員会

▽事業概要

白梅学園大学の教授による記念講演や武蔵野美術大学、白梅学園大学などの方によるパネルディスカッションを開催した。

▽実施日

平成 25 年 2 月 24 日（日）

▽場所

白梅学園大学・短期大学 J 棟 講義室

▽来場者数

51 人

▽実施状況

● 記念講演

白梅学園大学の教授による、「子育て支援と社会保障」のテーマで、子育て支援はなぜ必要か、地域の子育て支援の問題点と対策について、専門的な話を織り交ぜた講演を実施した。

● パネルディスカッション

パネラーとして、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科のプロジェクトチーム、白梅子育て広場G P学生委員会、小平西地区地域ネットワーク、小平市立児童館が参加し、「まちであそび、まちをつくる」をテーマにパネルディスカッションを行った。また、コメンテーターとして、2人の専門家からご意見をいただいた。



パネラーの皆さん



「子育て・子育てシンポジウム」 全体の様子

▽成果

参加者からのアンケートでは、「地域の子育て支援の重要性を改めて感じる。」、「学生の得意分野を子どもの現場で子どもに仕掛けているのがとても有意義で、すがすがしい。」、「それぞれの大学や児童館の子どもに対するあたたかい気持ちが伝わってきた。小川町二丁目児童館で行ったマップ作りは印象的でした。」、「こんなにもたくさんの人々が市内で活動され、プロジェクトが動いていることが分かった。活動されている人々を繋ぐような機会や場所、時間がもっとあればと思います。」などの意見が寄せられた。

このシンポジウムを通して、小平市内で活動している子育て支援に関わる団体の横のつながりをつくる契機になるとともに、学生と小学生との世代をこえた関わり、活動の発表の場となったと考えられる。

4 小川町一丁目児童館オープニングイベント 「明日にはばたけ！！おがいち児童館」

▽目的

多くの子どもたち、市民の方々に小平市の新しい児童館を知ってもらい、関心を持ってもらうことにより、これからの児童館運営を展開、発展させていく。

▽主催者

小平市

▽事業概要

小平市の3館目の児童館として3月15日に開館した小川町一丁目児童館において、オープニングイベントを2回に分けて行った。

● 第1弾

・実施日：平成25年3月16日（土）午前9時～午後6時

・場所：小川町一丁目児童館

・来場者数：256人

・実施状況

◇「熱闘！紙バトル」

リコーサイエンスキャラバン隊に出展を依頼し、科学の不思議と楽しさを子どもたちに伝えた。また、子どもたちが紙に描いたモンスターがスクリーン上でバトルを繰り広げた。

◇「KAPLAで創ろう。遊ぼう。」

KAPLAのデモンストレーションを見て、想像力の豊かな子どもたちが、なんでも創れる魔法の板KAPLAで色々なものを創った。



KAPLAで遊ぶ子どもたち



高く積み上げられたKAPLA

● 第2弾

- ・実施日：平成25年3月24日（日）午前10時～午後3時
- ・場所：小川町一丁目児童館、小川町一丁目地域センター
- ・来場者数：480人
- ・実施状況

◇オープニング 小平よさこい

上宿小、十二小のよさこいサークルによる披露。

◇コダレンジャーと遊ぼう！

コダレンジャーとのふれあい、写真撮影

◇ジャグリングショー

東京農工大学ジャグリングサークル「@ジャグ」のジャグリングショー及びジャグリング教室を開催

◇遊戯室で遊ぼう！

クライミングウォール、腕相撲、おもしろもぐらたたき

◇縁日コーナー

ペンシルバルーンアート、駄菓子釣り、消しゴムくじ、ポップコーンや屋台（豚汁、やきそば）



クライミングウォールに挑戦



腕相撲

▽成果

「小平西地区地域に児童館がなかったので、児童館が出来て嬉しい。」という声が多く聞かれた。第1弾ではメインのイベント以外にも、貸出しを行ったボードゲームやカードゲームが好評を博し、翌日からもそれらを楽しみに多くの来館者があった。新しい児童館の存在を実感し、今後も来たいと思えるイベントとなった。第2弾のイベント開催までに期間があったので、来館者への十分なイベントの告知ができ、期待が高まる中でイベント当日を迎える事が出来た。当日の天候は、曇りで気温が低い中であつたが、朝から多くの来館者があった。イベントのオープニングとして地域の小平第十二小学校、上宿小学校の子どもに「小平よさこい」を披露する機会を提供することができた。また、地域宣伝隊コダレンジャーは子どもたちに大人気で、小平に関するクイズも取り入れ、小平らしさ、小平を意識した演出でイベントにふさわしい内容となった。2日間で736人が来館し、地域の方へ新しくできた児童館の周知が図れたとともに、今後の児童館運営に資するイベントとなった。



小平よさこいの披露

▽事業費

- ・花小金井南児童館イベント、小川町二丁目児童館イベント、子育て・子育てシンポジウム
600,000円
- ・小川町一丁目児童館オープニングイベント 400,000円

小平市子ども議会

▽目的

子どもたちが議会の仕組みを体験すること、子どもたちとより多くの市民が議会や市政に対する理解や関心を深めることを目的とする。また、子どもたちがふるさと小平を見直し、柔軟な発想によるまちづくり等への提案をまとめることによって、小平の将来をあらためて考える機会とする。

▽主催

小平市議会

▽事業概要

- (1) 議長を座長に各会派から選出された議員7人で子ども議会実行委員会を組織し企画、運営に当たった。
- (2) 市内の小学校から選出された児童が子ども議員となり、小平のまちづくり等について質問を行い、議員が答弁した。
- (3) 子ども議員は、事前に質問通告書（500字程度）を提出した。
- (4) 答弁書は、答弁予定の議員が作成し、一人当たりの質問時間は、答弁を含め5分以内とした。
- (5) 子ども議会の会議録の作成、録画中継を行った。

▽実施日

平成24年7月21日（土）

▽場所

小平市役所7階小平市議会議場

▽参加者数

子ども議員23人

(市内公立小学校19校、東京創価小学校、
都立小平特別支援学校、サレジオ小学校の6年生)



子ども議会ポスター

▽傍聴者数

101人

▽子ども議員から出された質問事項一覧

- ・登校時間帯の車の通行について
- ・道について（2件）
- ・放射線量の測定について
- ・自転車事故を減らすための対策について
- ・放課後の校庭の使用について
- ・小平をより安全で楽しい町に
- ・小平市立小学校の名前について
- ・歩きタバコの実態
- ・小平の住みよい町づくり
- ・自転車の交通について



子ども議員の名札と記念のDVD



リハーサル時の子ども議員

- ・ 自転車を安全に乗ることについて
- ・ たかの街道について
- ・ 歩道の通りにくさについて
- ・ 交通ルールと携帯電話について
- ・ 小平の緑や畑について
- ・ 交番と児童館の数について
- ・ 学校について
- ・ 公園について
- ・ 市民広場を安全に使いやすくできないか
- ・ 観光地について
- ・ 学校での宿泊行事について
- ・ 公園と交通について



質問する子ども議員

▽成果

子ども議会は、市制施行40周年記念の際に実施して以来、10年ぶりの開催となった。前回は、市主催で子ども議員の質問に対して、市長と教育長が答弁を行ったが、今回のように議会主催で議員が答弁を行う形の開催は全国でも珍しく、子どもたちとより多くの市民が議会や市政に対する理解や関心を深める有効な事業であった。

▽事業費

210,268円



開会中の子ども議会



全員で記念撮影

第55回全日本花いっぱい小平大会

▽目的

市内における花いっぱい運動のさらなる普及と市民の緑化意識の向上、並びにこの大会によって育まれる地域コミュニティの結びつきを強めながら、市民が主体となった“緑豊かなまちづくり”を推進することを目的とする。

▽主催

第55回全日本花いっぱい小平大会実行委員会 全日本花いっぱい連盟

▽共催

小平市、小平市教育委員会、小平市緑と花いっぱい運動の会、小平市農業委員会、東京むさし農業協同組合、小平市園芸組合、小平市グリーンロード推進協議会、小平商工会、小平市観光農業協会、こだいらグリーンフェスティバル運営委員会、西武鉄道株式会社、小平茶道華道友の会、国際ソロプチミスト小平、FC東京、ちさと押花倶楽部、P. N. B. A z a l e a（近隣大学の学生有志による組織）

▽後援

国土交通省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、東京都市長会、東京都町村会、第29回全国都市緑化フェアTOKYO実行委員会、株式会社ジェイコムイースト西東京局、株式会社エフエム東京、株式会社エフエム西東京、朝日新聞社立川支局、産経新聞多摩支局、東京新聞立川支局、日本経済新聞社多摩支局、毎日新聞社多摩総局

▽事業概要

- (1) 第55回全日本花いっぱい小平大会式典の開催（大会運営専門部会）
- (2) あかしあ通りグリーンロード化、公共施設の緑化の実施（まちなみ緑化専門部会）
- (3) グリーンフェスティバル、ガーデニングコンテスト等の実施（イベント専門部会）

▽実施状況

(1) 大会運営専門部会

日 時：平成24年5月12日（土）午後3時～5時

会 場：ルネこだいら大ホール

参加者：約1,100人

内 容：

- ・オープニングアトラクション：小平市立小平第三中学校吹奏楽部
- ・全日本花いっぱい連盟表彰（個人・団体）
- ・第8回花と緑のこだいらガーデニングコンテスト表彰
- ・こだいらウェルカムボードデザイン画贈呈式
- ・大会宣言：市内ボーイスカウト・ガールスカウト
- ・セカンドアトラクション：武蔵野和太鼓集 打だっ鼓連



全日本花いっぱい
小平大会ポスター



小平第三中学校吹奏楽部による演奏



全日本花いっぱい連盟表彰



大会宣言 市内ボーイスカウト・ガールスカウト



武蔵野和太鼓集 打だっ鼓連

(2) まちなみ緑花専門部会

① 第1回花植え講習会及びせきれい公園花壇への花植え活動

日 時：平成23年10月8日（土）午前9時～11時

場 所：小平市立せきれい公園（小川町一丁目土地区画整理地内）

参加者：市民ボランティア 22人

協 力：小平市園芸組合（技術指導）

内 容：新たな市民ボランティア「こだいら 花いっぱい プロジェクト」を対象にした花植え技術の修得を目的に実施。小平市園芸組合の技術指導をいただき、公園内の花壇7基へ花植えを実施した。



完成後の花壇とメンバーの皆さん



参加者全員で集合写真

② 東部市民センターへのプランターベンチの設置

日 時：平成 23 年 10 月 9 日（日）

場 所：東部市民センター正面

設置数：5 基（チーク製・W2438/D508/H558）

内 容：東部市民センター正面の違法駐輪対策と景観向上を目的として実施した。既存のバリケードに替えて、プランターとベンチが一体となったプランターベンチ 5 基を設置した。

日 時：平成 23 年 11 月 19 日（土）

場 所：東部市民センター東側花壇

参加者：市民ボランティア 7 人

内 容：東部市民センターの東側のスペースを花壇として整備



東部市民センター前の様子

③ 小平駅南口有料自転車駐車場東側へのプランターベンチの設置

日 時：平成 23 年 11 月 14 日（月）

場 所：小平駅南口有料自転車駐車場東側（西友との間）

設置数：5 基（古紙 70%・再生ポリプロピレン 30%・W2200/D600/470H）

内 容：小平駅南口有料自転車駐車場前の違法駐輪対策、景観向上を目的として、既存のバリケードに替えてプランターとベンチが一体となったプランターベンチ 5 基を設置した。

④ 公共施設へのプランター設置

日 時：平成 23 年 11 月 16 日（水）午前 9 時～午後 5 時

施設数：53 施設（すべて市の公共施設）

設置数：プランター 642 個、花苗 10,716 株（すべて小平産）

内 容：平成 23 年 6 月に各施設管理者を対象に実施した要望調査を踏まえ、プランター 642 個、花 10,716 株を配布・設置した。



配布された木樽風プランター



市役所前の様子

⑤ 小平駅南口ロータリー植栽部の花壇化

日 時：平成 23 年 11 月 26 日（土）午前 9 時～正午

場 所：小平駅南口ロータリー植栽部

参加者：市民ボランティア 102 人（小平市緑と花いっぱい運動の会、市民）

企業ボランティア 11 人（西武鉄道株）

協 力：小平市園芸組合（整地・施肥・技術指導）

内 容：あかしあ通りグリーンロード化基本計画に基づく工事により更地となったロータリー植栽部へ市民・企業のボランティアにより約 8,200 株を植栽した。



花植え活動の様子



参加者全員で集合写真



完成後の花壇



市章部分と特大PR看板

⑥ 第 2 回花植え講習会及びせきれい公園での植え替え活動

日 時：平成 24 年 4 月 1 日（日）午前 9 時 30 分～正午

場 所：小平市立せきれい公園

参加者：市民ボランティア 17 人

協 力：小平市園芸組合（技術指導）

内 容：平成 23 年 10 月 8 日（土）に花植えを行った、せきれい公園内花壇の植え替え活動を実施した。マリーゴールドなどを中心に、春から夏にかけての花に植え替えた。なお、花壇に咲き続けていた、パンジーやビオラなどは、出来る限りボランティアの方に提供し、大切に育てていただくこととした。



完成後の花壇



参加者全員で集合写真

⑦ 公共施設へ花苗の再配布

日 時：平成 24 年 4 月 17 日（火）午前 9 時～午後 5 時

施設数：85 施設（すべて市の公共施設）

設置数：花苗 16,090 株（すべて小平産）

内 容：平成 23 年 11 月 16 日（水）に、各公共施設へ配布したプランターへの植え替え用の花苗約 16,090 株を配付した。

⑧ 小平駅南口ロータリー植栽部の植え替え

日 時：平成 24 年 4 月 14 日（土）午前 9 時～正午

場 所：小平駅南口ロータリー植栽部

参加者：市民ボランティア 71 人（小平市緑と花いっぱい運動の会、市民）
企業ボランティア 40 人（西武鉄道株）

協 力：小平市園芸組合（整地・施肥・技術指導）

内 容：平成 23 年 11 月 26 日（土）に花壇化を行った小平駅南口ロータリー植栽部の植え替え活動。冬の花であるパンジーやビオラなどを抜き取り市民へ提供。その後、ベゴニアセンパ、マリーゴールド、インパチェンスなど、春から夏にかけての花約 8,100 苗を植え替えた。



花植え活動の様子



参加者全員で集合写真



市章部分も、さらに綺麗になりました

⑨ 小平市民文化会館（ルネこだいら）前へ底面灌水式プランターの設置

日 時：平成 24 年 4 月 15 日（日）午前 10 時～正午

場 所：小平市民文化会館（ルネこだいら）前

参加者：市民ボランティア 33 人

協 力：小平市園芸組合（技術指導）

施設数：100 基（FRP「ガラス繊維強化プラスチック」・W820/D410/390H）

内 容：大会式典の会場である小平市民文化会館（ルネこだいら）前へ、底面灌水式プランター100 基を設置。プランターへの花植えは、「こだいら 花いっぱい プロジェクト」を中心とした、33 人の市民ボランティアで実施。



花植え活動の様子



花植え後のルネこだいら前の様子

⑩ 第4回花植え講習会及び上水公園での植え替え活動

日 時：平成24年6月2日（土）午前10時～11時30分

場 所：小平市立上水公園

参加者：市民ボランティア 8人

花苗数：約360苗

協 力：小平市園芸組合（技術指導）

内 容：平成24年2月26日（日）に花植えを行った上水公園内花壇の植え替えを実施。

⑪ 第5回花植え講習会及び市民総合体育館前プランターの植え替え活動

日 時：平成24年8月18日（土）午前9時～10時30分

場 所：小平市民総合体育館前

参加者：市民ボランティア29人

花苗数：約1,530苗

協 力：小平市園芸組合（技術指導）

内 容：平成24年8月25日（土）に、第68回国民体育大会競技別リハーサル大会が行われる小平市民総合体育館前のプランターの植え替えを実施。85基の底面灌水式プランターに色とりどりの花を植え、リハーサル大会の雰囲気を盛り上げた。



花植え活動の様子



市民総合体育館前の様子

⑫ 小平駅南口ロータリー植栽部の植え替え活動

日 時：平成24年10月13日（土）午前9時～11時30分

場 所：小平駅南口ロータリー植栽部

参加者：市民ボランティア86人（小平市緑と花いっぱい運動の会、市民）
企業ボランティア51人（西武鉄道株）

花苗数：約7,750苗

協 力：小平市園芸組合（整地・施肥・技術指導）

内 容：小平駅南口ロータリー植栽部の植え替えを実施。平成24年10月20日（土）に小平市民文化会館及び小平駅周辺で行われる市制施行50周年記念式典及び市民まつり前夜祭に向け、色とりどりの花壇が完成し、イベントを盛り上げた。



完成後の花壇の様子



参加者全員で集合写真

⑬ つつじ公園での植樹活動

日 時：平成 24 年 10 月 27 日（土）午前 10 時～正午

場 所：市立つつじ公園

参加者：市民ボランティア 79 人（小平市緑と花いっぱい運動の会、市民）
企業ボランティア 76 人（J R 東日本八王子支社）

苗木数：1,500 苗

協 力：小平市園芸組合（整地・施肥・技術指導）

内 容：J R 東日本八王子支社が実施している「鉄道沿線からの森づくり事業」と市が市制施行 50 周年記念事業として推進を強化している「花いっぱい運動」の共同企画として実施。1,500 本のクルメツツジの寄贈を受け、J R 東日本のご家族や近隣自治会の方にも植樹活動にご参加いただき、つつじ公園のリニューアルを実施。



植樹活動の様子



参加者全員で集合写真

⑭ 第 6 回花植え講習会及びせきれい公園での植え替え活動

日 時：平成 24 年 11 月 17 日（土）午前 10 時～11 時

場 所：小平市立せきれい公園

参加者：市民ボランティア 14 人

苗木数：約 560 苗

協 力：小平市園芸組合（技術指導）

内 容：平成 24 年 4 月 1 日（日）に植え替えを行った、せきれい公園内花壇の再植え替えを実施。

⑮ 公共施設へ花苗の再配布

日 時：平成 24 年 11 月 20 日（火）午前 9 時～午後 4 時

施設数：85 施設（すべて市の公共施設）

花苗数：約 16,290 株（すべて小平産）

内 容：平成 23 年 11 月 16 日（水）に、各公共施設へ配布したプランターへの植え替え用の花苗を配付。

(3) イベント専門部会

① 第 20 回こだいらグリーンフェスティバル

日 時：平成 24 年 5 月 13 日（日）午前 10 時～午後 4 時

場 所：小平市立中央公園グラウンド

主 催：第 20 回こだいらグリーンフェスティバル運営委員会、
P. N. B. A z a l e a（近隣大学の学生有志による組織）

来場者数：約 7,000 人

内 容：

● 屋外ステージでのイベント

- ・どんぐりの里親制度 PR セレモニー
- ・「たくさんあります！小平の魅力つたえ隊」任命式&LLR トークショー
- ・草笛演奏
- ・キャラクターコーナー（ぶるべー・コダレンジャー・東京ドロンパ・キュータ）
- ・ダンスイベント「Dance! Dance! Dance! ～Heart to Heart」

● 記念植樹 中央公園内

第 55 回全日本花いっぱい小平大会及び第 20 回グリーンフェスティバルを記念して、タイサンボクの木を記念植樹した。植樹には、小林市長、全日本花いっぱい連盟 有賀会長、小平市緑と花いっぱい運動の会 宮崎会長、第 20 回こだいらグリーンフェスティバル運営委員会安齋委員長が参加。

● 会場内

- ・第 20 回こだいらグリーンフェスティバル運営委員会所属団体によるブース
- ・小平市商工会による出店ブース
- ・FC 東京によるキックターゲット、東京ドロンパふわふわ
- ・県人会による、各県の特産物の販売



会場内の様子



記念植樹の様子



どんぐりの里親制度PRの様子



「Dance! Dance! Dance!」の様子



イベントの企画・運営を行った近隣大学の学生有志「P. N. B. Azalea」のメンバーの皆さん

② サテライト会場

● 平櫛田中彫刻美術館

日 時：平成 24 年 5 月 13 日（日）午後 1 時～3 時

来場者数：287 人

内 容：華道研究家 武内範男氏によるデモンストレーション「いけ花ライブ」を開催。
 なお、当日は、全国からの参加者に、平櫛田中及び美術館のPRを図るため観覧料を無料とした。



華道研究家 武内範男氏による
「いけ花ライブ」の様子



完成後のいけ花の様子

● 小平ふるさと村

日 時：平成 24 年 5 月 13 日（日）午後 2 時～3 時

来場者数：604 人（コンサートには、220 人が来場）

内 容：ジョン・海山・ネプチューン氏（尺八）と浜田均氏（ヴィブラフォン）による
 「尺八が奏でるアコースティック・ハーモニー」を開催した。その他、ふるさと村内に、大会を記念して素心頼梅（そしんろうばい）を記念植樹した。植樹には、小林市長、佐野小平市議会議長、ジョン・海山・ネプチューン氏が参加。



コンサートの様子



記念植樹の様子

③ 第8回花と緑のこだいらガーデニングコンテスト

日 時：展示期間は、大会式典の5月12日（土）から5月20日（日）正午まで

場 所：ルネこだいら前広場

主 催：小平市グリーンロード推進協議会、小平市園芸組合、JA東京むさし小平支店、小平商工会青年部、小平市

内 容：都市化による緑の減少を防ぐ緑化推進と、小平グリーンロードに代表される自然とうるおいのあるまちづくりを目指して開催した。今年は、第55回全日本花いっぱい大会を盛り上げるため、例年の小平市長賞、東京むさし農業協同組合長賞に加え、小平市緑と花いっぱい運動の会会長賞を金賞として加えた。また、金賞受賞者は、大会式典で表彰を行った。



ガーデニングコンテストの様子

▽広報活動

第55回全日本花いっぱい小平大会は、市民の緑化意識の向上と“緑豊かなまちづくり”を推進することを目的として開催した。この大会をPRするため、以下のような取組を行った。

(1) 大会イメージの作成

ポスター、のぼり、看板、懸垂幕などの掲出にあたり、大会をPRするための統一イメージを作成した。



大会イメージ

(2) 大会ポスターの作成及び掲出（2回）

平成 23 年 10 月作成分

数 量 500 枚（B 1）

掲出場所 公共施設等

平成 24 年 3 月作成分

数 量 2,000 枚（B 2, B 3 各 1,000 枚）

掲出場所 公共施設等、自治会掲示板、商工会所属の各店舗

(3) 懸垂幕の掲出

数 量 2 本

掲出場所 市役所東側、健康センターに西側

仕 様 縦 14.5m×横 1.3m、縦 10m×横 1.3m 1 本

(4) 看板の掲出

数 量 1 台

掲出場所 小平駅南口花時計付近

仕 様 縦 1.5m×横 9m

(5) 横断幕の掲出

数 量 3 本

掲出場所 健康福祉事務センター西側壁面、中央公園内（2箇所）

仕 様 縦 1.3m×縦 9m

(6) のぼりの掲出

数 量 100 本

掲出場所 ルネこだいら内及び正面入口前、中央公園グラウンド円周、市役所 1 階ロビー
及び市民課、小平ふるさと村、りそな銀行小平支店正面玄関前、鷹の台商店街

仕 様 縦 180 c m×横 60 c m

(7) 大会 P R ステッカーの作成及び配布

数 量 2,000 枚

掲出場所 プレートにステッカーを貼り付け、各公共施設へ配布したプランターへ差し込み掲出

(8) 大会 C M の制作及び放映

放映媒体 J : c o m チャンネル

放映期間 平成 24 年 1 月 16 日（月）から平成 24 年 5 月 13 日（日）

番組提供 第 5 5 回全日本花いっぱい小平大会実行委員会が「むさしの☆ウェスタン」という番組を提供し、番組内で 3 0 秒間放映。

(9) 大会 P R 用 ポケットティッシュ作成及び配布

数 量 5,000 個

配布場所 本庁舎 1 階受付、東西市民センター、各種イベント

(10) 大会 P R 広告入り花の種の配布

数 量 50,000 袋

配布場所 本庁舎 1 階受付、各種イベント

(11) 大会PRチラシの作成

数 量 30,000部

配布場所 本庁1階受付、自治会回覧、商工会所属の各店舗、各種イベントでの配布

仕 様 A4三つ折り

(12) 各種イベントでの大会PR活動及び「こだいら 花いっぱい プロジェクト」メンバー募集活動

既にボランティア登録しているメンバーが中心となり、ポケットティッシュや広告入り花の種を配布し、大会PR活動及び「こだいら 花いっぱい プロジェクト」メンバー募集活動を行った。

① 平成23年10月16日(日)

小平市民祭り(あかしあ通り)

② 平成23年11月13日(日)

小平市産業まつり(健康センター及び福祉会館前)

③ 平成24年2月26日(日)

小平ファイヤーフェスタ with FC東京(FC東京グラウンド)

④ 平成24年4月7日(土)

ハナテン春の花まつり(小平市立たけのこ公園)



特大看板でメンバーを募集

(13) その他大会PR

① 5月5日号市報特集号への掲載(花いっぱい小平大会特集号)

② 市ホームページでの「こだいら 花いっぱい プロジェクト」活動記録の掲載及びメンバーの募集

③ 庁内報への掲載(平成24年3月号)

④ ごみライフへの掲載(平成24年3月号)

⑤ 都政新聞(平成23年12月20日号)

「こだいら 花いっぱい プロジェクト」の活動及びメンバー募集の掲載

⑥ こだいらネットホームページ(商工会のポータルサイト)へ

「こだいら 花いっぱい プロジェクト」メンバーインタビュー及び活動内容の掲載
(平成24年4月10日)

⑦ 「ASA花小金井通信」への掲載

⑧ エフエム西東京「おとなの喫茶店」での大会PR

⑨ 小平駅南口商店街での宣伝

- ・ポスター及びのぼりの掲出
- ・商店街作成の看板による大会PR



大会PR及びメンバー募集の様子

▽参加者の声

式典に参加いただいた、小平市立第三中学校吹奏楽部と武蔵野和太鼓集打だっ鼓連の演奏は、完成度が高く全国からのお客様に大変好評であった。今回の大会式典では、受付や司会進行などの式典業務に「小平市緑と花いっぱい運動の会」と「こだいら 花いっぱい プロジェクト」を中心とした、多くのボランティアスタッフの方に協力いただき、市民が主役となった式典運営を行った。また、小平市緑と花いっぱい運動の会森田副会長の司会進行は、一般的な式典の形式的な司会と違い、アドリブを効かせ、会場内のお客様にも楽しんでいただける内容となった。全体として、市民参加の手づくりによる式典を感じたとの感想を多くいただいた。

イベント関連では、中央公園特設屋外ステージで行われたダンスイベント「Dance! Dance! Dance! ~Heart to Heart」の参加者から、「いろいろなジャンルや、いろいろな世代の人達と同じ舞台上で踊ることがないので、本当に楽しかったです。」などの声が寄せられた。

観客だけではなく、演者の人達にも「花と緑」をテーマにしたイベントを楽しんでいただけたと感じる。

また、サテライト会場の平櫛田中彫刻美術館での「いけ花ライブ」、小平ふるさと村での「尺八が奏でるアコースティック・ハーモニー」も盛況であった。このような花と緑に触れ合うイベントを実施したことで、緑の保護と緑化の推進に関する意識啓発を推進することができたと考える。

▽成果

市民が主体となった、“緑豊かなまちづくり”を実現するためのきっかけとして、当大会を開催した。大会へ向け、市内を花いっぱいにするという取組の中、多くのボランティアによる花植え活動が、緑化意識の向上に寄与したと考える。「小平市緑と花いっぱい運動の会」と「こだいら 花いっぱい プロジェクト」の活動は、参加メンバーが新たなメンバーを誘い、自然発生的にボランティアが増えるという理想の形となった。また、毎回の花植え活動の中で、メンバー間の交流も深まり、今後も継続して、市内の緑化に取り組む土壌が出来たとと言える。

大会式典及び関連イベントにおいても、緑と花をテーマにした題材を数多く盛り込んだことにより、参加者に「これからのまちづくりには、市民の積極的・主体的な参加が必要であること」を積極的に伝えることが出来たと考える。

▽事業費

13,938,130 円（平成 23 年度）

19,107,022 円（平成 24 年度）

こだいら名木百選

▽目的

小平市には、古くから小平の歴史を見守り、小平の文化や生活と深く関わり、親しまれている樹木や、人々の心に残るような樹木が存在している。

市制施行50周年記念事業として、これらの親しまれている樹木、心に残る樹木等を調査し、市民と行政が協力し維持・管理することを目的とする。

▽主催

小平市

▽事業概要

次の世代へ引き継ぎたいと思う名木について、広く市民から募集し、平成25年度に、有識者と公募市民で構成する「こだいら名木百選選定委員会」で、名木の選定及び編集等を行い、こだいら名木百選マップ（仮称）を制作する。

▽募集内容

現在、市内に生育し、中・長期的に維持管理することが見込めるもので、次のいずれかに該当する木

- ・すばらしい樹形の木
- ・歴史や由緒のある木
- ・めずらしい木
- ・おもしろい木
- ・地域のシンボルとなっている木
- ・景観的に優れた木
- ・巨木や古木
- ・前記のほか、こだいら名木百選選定委員会で特に名木として認める木

▽募集期間

平成24年12月20日（木）～平成25年6月28日（金）

▽成果

市民に対し、緑の保護と緑化に関する意識啓発及び小平の新たな名所としての活用が期待できる。

▽事業費

69,200円



名木のイメージ

こだいら環境フェスティバル

▽目的

環境に対する市民の意識啓発を目的として実施する。

▽主催

小平市、小平市ごみ減量推進実行委員会

▽事業概要

例年、こだいらエコフェスティバルとして開催しているイベントを、今年度は、市制施行50周年記念事業として、市民・事業者・市が一体となった「こだいら環境フェスティバル」とし、規模を拡大して開催した。

▽実施日

平成24年9月8日（土）午前10時～午後3時

▽場 所

中央公園・ふれあい下水道館

▽小平市ごみ減量推進実行委員会参加者数

49人

▽来場者数

約4,000人

▽実施状況

● 中央公園会場

フリーマーケット、ステージ発表、陶磁器のリサイクル（回収・販売）、おもちゃの病院、粗大小物類・食物資源たい肥の無料配布、太陽エネルギー見本市、ねずみ害虫相談会、下水道館の中を見るカメラ車と洗浄車の実演と展示。



フリーマーケットの様子



子どもソーラー環境工作の様子



食器は洗って返却（食器デポジット）



陶磁器リサイクル販売所の様子

● ふれあい下水道館会場

電気自動車の展示、雨水浸透模型展示、子ども木工教室、不要品から作る洋服などの作品展



ふれあい下水道館アーチ

▽成果

ごみ減量推進実行委員会の新しい取組として、平成23年度より陶磁器製食器のリサイクルを始めているが、このイベントでも、不要になった陶磁器の回収と、以前に回収した陶磁器の販売を行った。当日、回収陶磁器は630Kg集まり、この分の燃えないごみの減量につながった。また、このイベントでの飲食物の販売は使い捨ての容器は使用せず、全て容器デポジット方式とし、使用した食器は自分で洗浄して返却していただいた。さらに、生活環境から切り離すことのできない下水道管の中を見るカメラ車の展示や、地球温暖化防止に有効な太陽エネルギーの見本市も盛況であった。

こうした展示等を通じて、市民の環境への意識の高まりが期待できるイベントとなった。

▽事業費

1,859,679円

玉川上水サミット

▽目的

- ・国の史跡である玉川上水を、流域区市が共有する貴重な財産として再認識する。
- ・流域区市の首長が一同に集まることにより、連携を図り、さらなる利活用のきっかけとする。

▽主催

小平市

▽協力

立川市、小金井市、西東京市、武蔵野市、三鷹市、杉並区
津田塾大学（飯野学長基調講演、会場提供）
武蔵野美術大学（ポスター・リーフレット作成）
小平アーカイブスの会（ウェルカム映像作成）
小平第三小学校、小平第四小学校（パネル展示）



武蔵野美術大学との連携で作成したポスター

▽事業概要

津田塾大学 学長 飯野正子氏による基調講演と、玉川上水中流域の7区市長によるパネルディスカッションを開催した。

▽実施日

平成 24 年 9 月 29 日（土）午後 2 時 30 分～4 時 30 分

▽場所

津田塾大学 小平キャンパス 新館 特別教室

▽来場者数

411 人

▽実施状況

● 基調講演

津田塾大学 学長 飯野 正子先生より、「玉川上水と津田塾大学」のテーマで、津田塾大学が小平市に移転してきた当時の玉川上水との関わりを、様々なエピソードを織り交ぜた講演があった。



飯野正子先生による基調講演

● パネルディスカッション

コーディネーター 津田塾大学 学長 飯野 正子 氏
 パネラー 立 川 市 長 清水 庄平 氏
 小 金 井 市 長 稲葉 孝彦 氏
 西 東 京 市 長 坂口 光治 氏
 武 蔵 野 市 長 邑上 守正 氏
 三 鷹 市 長 清原 慶子 氏
 杉 並 区 長 田中 良 氏
 小 平 市 長 小林 正則

玉川上水中流域の7区市の首長が集まり、玉川上水をめぐる各自治体の取組や歴史、首長の思い出や将来に向けた夢が語られた。

最後には、玉川上水の活用や自治体における継続的な連携など、4つの共通の基本的な考え方を「宣言」した。



7区市の首長によるパネルディスカッション



サミット最後の宣言の様子



署名入りの宣言書
 (宣言書の内容は次ページ参照)

玉川上水サミット 宣 言

玉川上水は、江戸時代の承応3(1654)年、江戸市中への給水を目的として開削された上水です。

多摩川を水源とし、多摩川中流の羽村取水口から四谷大木戸まで延長約43キロメートル、幅約5.5メートルの自然流下による素掘りの開きよでした。

江戸時代の開削から現代まで、分水路を含めて江戸・東京の都市機能を支え続けてきた玉川上水。

大正13(1924)年には、現在の小平市の小川水衛所跡から武蔵野市の境橋までの区間が、名勝「小金井(サクラ)」に指定されました。

また、平成11(1999)年には、宮本橋から四谷大木戸までのうち開きよ部分が東京都の歴史環境保全地域に指定(平成14(2002)年に追加)され、さらに、平成15(2003)年には、羽村取水口から四谷大木戸に至る水路敷のうち開きよ部分約30キロメートルが国の史跡に指定されました。

中でも、素掘り開きよが残されている小平監視所から浅間橋までの中流域約18キロメートルの区間は、昭和40(1965)年から流れが途絶えていましたが、玉川上水を愛する人々の尽力もあって昭和61(1986)年、清流復活事業によって流れが戻りました。

現在は、身近な水と緑の空間として、広く親しまれています。

この歴史的価値の極めて高く、多くの方に愛されている玉川上水を後世に残していくことはわたしたちの重要な責務です。

玉川上水中流域のわたしたちは、ここに、4つのことを宣言します。

- 一 開削から現在にいたるまでの先人の歩みとその労苦に敬意を表すとともに、国の史跡指定文化財として貴重な歴史的土木遺構であることを再認識し、次の世代に玉川上水を継承します。
- 一 都市における貴重な緑の軸線として、関係機関と連携を図り、今後も周辺環境やまちづくりと調和した玉川上水の景観等を大切にしていきます。
- 一 地域住民の憩いの場や交流の場として、また観光や地域活性化等の舞台として、玉川上水の活用を図ります。
- 一 玉川上水中流域自治体における継続的な連携を推進します。

平成24年9月29日

● ポスター・リーフレット

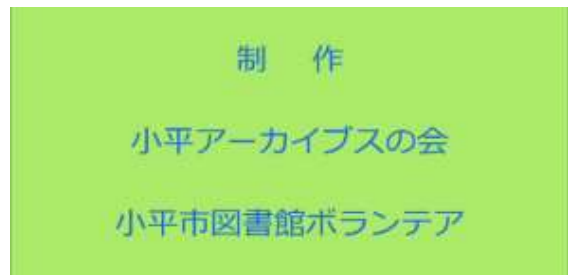
玉川上水サミットのポスター・リーフレットについては、武蔵野美術大学と連携し、作成した。



作成にご協力いただいた武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科の後藤教授と学生の皆さん

● ウェルカム映像

開場から開会までの間、小平アーカイブスの会に作成していただいたウェルカム映像「玉川上水今昔」を流し、来場者に楽しんでいただいた。



動画映像の一部

● パネル展示

会場の出入り口付近に、玉川上水を題材に環境学習を行っている小平第三小学校、小平第四小学校のパネルを展示し、来場者にご覧いただいた。



小平第三小学校のパネル展示



小平第四小学校のパネル展示

▽来場者の声

来場者にアンケートを配布し、当日の感想などについて記入していただいた（以下一部抜粋）。

- 飯野学長の「地域が人を育てる」、「津田塾大学は地域とともに成長してきた」というお話に大変感動しました。
- 流域の首長が一堂に会した意義は大きい。
- 緑と水の回廊でつながっている各自治体のますますの連携に期待。
- 広域の連携で美しい玉川上水になることを期待しています。
- 玉川上水を大切にする気持ちに共感した。各区市長の熱意を感じました。
- 夢の共有を継続し、夢の実現に向けて頑張ってもらいたい。
- 玉川上水を後世まで残し、市民社会がもっと豊かになればと思う。

▽成果

国の史跡である玉川上水を、流域区市が共有する貴重な財産として再認識するとともに、流域区市の首長が一同に集まり、今後、連携を図り、さらなる利活用のきっかけとするために、共通の認識として4項目の「宣言」を行った。また、多くの来場者があり、アンケートの結果からも来場者の満足度は高かったと思われる。

ポスター・チラシ作成における武蔵野美術大学との大学連携、小平第三小学校・第四小学校のパネル展示、小平アーカイブスの会のウェルカム映像の上映など、市民との協働による事業展開を図ることができた。

▽事業費

658,887 円

丸ポストフォーラム in こだいら」

▽目的

全国から、丸ポストでまちおこしを行っている方々をお招きし、産業交流を軸に、地域特産を活かしたまちづくりについて意見を交わす。

▽主催

小平市、財団法人自治総合センター

▽協力

日本郵便株式会社小平郵便局、小平市内郵便局

▽事業概要

日本各地には様々な色の丸ポストが存在し、どのポストも地域の人々に愛され、日常の風景にしっかりと溶け込んでいる。今回、宮城県大崎市、新潟県長岡市、愛知県西尾市から、丸ポストでまちおこしを行っている方々を招き、各団体での取組を紹介するなどのパネルディスカッションを行った。また、パネルディスカッションに先立ち、丸ポストの歴史や世界のポスト事情などを交えた基調講演を行った。

▽実施日

平成 24 年 10 月 20 日（土）午後 1 時～3 時

▽場所

ルネこだいら中ホール

▽来場者数

97 人

▽実施状況

● 基調講演

第 1 部では、日本郵便株式会社オペレーション本部集配部長の宮澤一信氏から、ポストの歴史や郵便物の収集の仕組み、世界のポストなどについてご講演をいただいた。ポストの収集漏れの有無を、ポスト内部の二次元バーコードでチェックを行っていることなど、貴重なお話を聞くことができた。



日本郵便株式会社 宮澤氏の講演

● パネルディスカッション、

第 2 部のパネルディスカッションでは、全国で丸ポストを活用してまちおこしを行っている方々に、各団体の取組を紹介していただいた。



取組を紹介する各市の皆さん

◇ 宮城県大崎市

商店街の方々が中心となってグッズを販売するなど、「幸福（しあわせ）の黄色い郵便ポスト」でまちを盛り上げている。映画「幸福の黄色いハンカチ」をヒントに、色々な人へ幸せを送れる黄色いポストが誕生した。



幸福の黄色い郵便ポスト

◇ 新潟県長岡市

長岡市の中でも漁港で知られる寺泊には、3.5 kmの圏内に10本のポストが立ち並ぶ「寺泊丸ポスト街道」がある。市民ワークショップの方々が、この丸ポスト街道をPRするため、案内マップを作成している。



「丸ポスト街道」案内マップ

◇ 愛知県西尾市



ローカルヒーロー「カテキング」

抹茶の生産量日本一を誇る愛知県 西尾市には、平成 18 年に開かれた大茶会を記念し、抹茶色に塗られた丸ポスト「おもてなし・まごころポスト」がある。この抹茶色の丸ポストから誕生したローカルヒーロー「カテキング」は、西尾市の子どもたちに大人気である。

▽成果

丸ポストフォーラムの開催により、参加した3市の市民団体や郵便局などとの交流が生まれ、丸ポストによって新たな関係を築くことができた。また、丸ポストフォーラムに参加した愛知県西尾市から西尾茶協同組合が、新潟県長岡市からは寺泊観光協会が、翌日の小平市民まつりにて各市の特産品の出店を行うなど、産業面での連携の可能性がうかがえた。

▽事業費

222,260 円（平成 23 年度）

754,485 円（平成 24 年度）

丸ポスト



正式名称は、「郵便差出箱 1 号」。

終戦を迎え、物資の入手がしやすくなった昭和 24 年から新しい鉄製ポストとして実用化されました。A4 サイズが投函口に入らないことや、収容量が角型ポストに比べて少ないことなどから、数が減りつつありますが、昔懐かしい丸ポストには、現在も多くの愛好者がいます。

市民活動まちづくりシンポジウム みんなで創る～「ずっと住みたいまち」小平～

▽目的

講演会の実施により、市民が市民活動に参加し、地域課題の解決に取り組むきっかけになることを期待するとともに、市の市民活動支援の施策や市民活動支援センターのPRにつなげる。

▽主催者

市民活動まちづくりシンポジウム実行委員会、小平市

▽事業概要

小平が「市」になって半世紀というこの節目に、市と市民と一緒に企画し運営する、市民のためのシンポジウムを開催した。

▽実施日

平成24年10月6日（土）午後1時～4時30分

▽場所

福祉会館 市民ホール

▽実行委員会

27人（公募市民）

▽来場者数

214人

▽実施状況

(1) 基調講演

●「私からはじまるまちづくり」

講師：早瀬 昇さん

（認定NPO法人 日本NPOセンター代表理事、大阪ボランティア協会常務理事）

早瀬 昇さんは、長年に渡る豊富な活動経験に基づき、市民活動の考え方や心構え、陥りやすい事象と解決策について、軽快な大阪弁で、時折、会場を笑いの渦に巻き込みながら、とても分かりやすく話をした。「市民活動は好きなことをしていい」、「市民活動はなかなかすごい、行政に比べて温かい」、「好きだからこそ続けられる」と説明があり、最後に「愛する家族や仕事があるうちはいいが、仕事をやめ、子どもも巣立ったときに、まちの中に好きなものを持っている人の方が元気でいられる。是非そのような人生を送ってほしい」と結んだ。



早瀬昇さんの講演会の様子

● 「多世代がいきいき暮らすまちづくり」

講師：汐見稔幸さん（白梅学園大学学長）

汐見稔幸さんは、2年前のNHKで放送された、「声を出して遊んではいけない」という立て看板が立ててある児童公園の例を挙げた。今は遊んでいる子どもたちが誰だか分からないが、昔は遊んでいる子どもたちが誰だか分かった。知らない子どもの声はうるさいという、ショッキングな内容だった。

子育て支援とは、子育てしやすいまちを作ること、まちの人たちが子どもやその親のことを知っていて、つながりを作ること。子どもたちが「小平で過ごした子ども時代は楽しかったな」と言ってくれるまちにするには、どうしたらいいか、と問題提起をし、市民みんなが本気になって、まちづくりをやらなければならないと結んだ。



汐見稔幸さんの講演会の様子

(2) 分科会

休憩を挟み、シンポジウム後半は、それぞれの講師を囲んで分科会を行った。双方約60人が参加し、まず基調講演に対しての質問に講師が答える形で進められた。早瀬さんの分科会では、「私を開く」とはどういうことか、燃え尽きないためにはどうしたらいいか、仲間を増やすいいアイデアは、などの質問が挙がり、一つ一つの質問に丁寧に答えてくれた。

また、汐見さんの分科会では、会場からの質問のほか、基調講演の前に参加者に書いてもらった「小平で暮らしていて困っていること、良かったこと」を基に、話が展開された。いずれの分科会も、明日からの市民活動のモチベーションが上がるような話だった。



早瀬昇さんの分科会の様子



汐見稔幸さんの分科会の様子

▽参加者の声

来場者の方からのアンケートでは、多くの意見や感想が寄せられ、満足の高さが伺えた。

- ・ボランティアを始めるに当たり、どのような取組をしていくのがいいのか、そのヒントが得られたように思う。
- ・市民活動って何と面倒なものだろう、やめたらスッキリするかもしれないと思っていた。でも、今日のお話を聞いて、市民活動を続けるのも悪くないなと感じた。

- ・市民活動には、これから色々な可能性があると思えた。「聞く」という言葉をキーワードに、自分の回りで小さくても変化を起こせたら、と思う。
- ・様々な市やまちでこれから迎える少子高齢化社会へ向かって、まちづくりの試行錯誤が続けられている今、時を得たテーマのシンポジウムだったと思う。
- ・行政も市民の持つ力を認め活用しようという姿勢を持つこと、市民も対話をしながら行っていく力を持つことが求められると思う。
- ・それぞれのスタイルを認め合うこと、とても大切だと思った。多世代への交流できるステキな場所がたくさんできるといいと思った。

▽成果

このシンポジウムは、近年、人と人、人と地域のつながりが希薄になっている中で、東日本大震災をきっかけに、改めて地域コミュニティの大切さや必要性が問い直されている今、多くの方にこれからのまちづくりを考え行動するきっかけとなって欲しいとの趣旨で企画した。開催に至るまでには、シンポジウム実行委員会に応募した市民 27 人と市が、まちづくりについて 20 回に及ぶ協議を重ねるとともに、小平市社会福祉協議会の協力を得て準備を進めてきた。まちづくりへの想いや、講演者に話していただきたい内容などについて、実行委員会で何度も議論を重ねた結果、企画全体のキャッチフレーズを“みんなで創る～「ずっと住みたいまち」小平～”とし、実行委員である市民の想いが、いっぱい詰まったシンポジウムとなった。まさに、市民と市と一緒に企画し運営する協働事業として、市民のためのシンポジウムが開催できたと考えている。

▽事業費

544,550 円

ブルーベリー栽培発祥の地こだいらスイーツコンテスト

▽目的

小平産ブルーベリーのPRとともに、新商品開発の機運を高め、市内産業の育成を図ることを目的とする。

▽主催

小平市

▽協力

国際パティシエ調理師専門学校、小平洋菓子組合、
小平ブルーベリー協議会

▽事業概要

ブルーベリーを使ったレシピ、アイデアを募集する
ブルーベリースイーツコンテストを実施した。



ブルーベリースイーツコンテストチラシ

▽部門

● レシピ部門

ブルーベリーを使ったオリジナルレシピの作成。2次審査時に試食用スイーツを製作する。

● アイデア部門

「こんなケーキやお菓子を食べてみたい、あったらいいな」と思うブルーベリーを使ったスイーツのアイデアをイラスト等で作成する。

▽応募条件

- ・小平市内、市外、プロ、アマチュアを問わず、誰でも応募することができる。ただし、グループ（2人以上）での応募は不可とする。
- ・応募は、一人2作品以内とする。
- ・応募作品は以下の条件をすべて満たす作品とする。
 - ブルーベリーを原材料に使用し、その特長を生かしている和洋菓子であること。
 - 作品は、未発表のオリジナルレシピ・アイデアであること。
 - 作品は、概ね3時間で製作できるものであること。
 - 作品は、店頭での販売、持ち帰りが可能な大きさであること。
 - 一次審査の通過者は、8月29日（水）の2次審査会で応募作品を製作できること。アイデア部門は表彰式にのみ参加する。

▽審査方法

● 1次審査：書類審査

応募作品の中から、数点を選出する。アイデア部門は、1次審査のみ。

● 2次審査：デザイン・味覚審査

2次審査会場：国際パティシエ調理師専門学校

審査会場で書類審査通過作品を実際に、製作し、公開にて審査を行う。審査は、当日来場者によるデザイン審査、審査員によるデザイン・味覚審査でグランプリ等を選考する。

▽賞品

● レシピ部門

- ・グランプリ 1作品 賞金3万円+副賞
- ・準グランプリ 3作品 賞金1万円+副賞
- ・審査員特別賞 数作品 記念品

● アイデア部門

- ・金賞 1作品 記念品+副賞
- ・銀賞 2作品 記念品

※各受賞者には、賞状を授与する。



実技審査の様子
(国際パティシエ調理師専門学校)

▽応募作品数

- レシピ部門 68点
- アイデア部門 19点

▽投票参加者数

77人

▽入賞作品

● レシピ部門

レシピ部門の2次審査が8月29日(水)に国際パティシエ調理師専門学校で行われレシピ部門68点の応募の中から、12作品が1次審査を通過し、2次審査当日は、中学生から60代までの方11人がグランプリを目指して腕を競った。審査員による採点に、来場者による投票を加算し、グランプリ、準グランプリ作品が決まった。

- ・グランプリ：ブルーベリーダコワーズ
- ・準グランプリ：パフェ・ミルティューユ
- ・準グランプリ：夏のさわやかブルーベリームース
- ・準グランプリ：ブルベイ(干菓子)
- ・審査員特別賞：ぶるベーケーキ
- ・審査員特別賞：ブルーベリー小籠包 キャラメルソースがけ
- ・審査員特別賞：ブルーベリーショコラレアチーズ
- ・審査員特別賞：夏にピッタリ! サッパリ ブルーベリーのレアチーズケーキ
- ・審査員特別賞：ブルーベリートルト
- ・審査員特別賞：Raw ブルーベリーチーズケーキ
- ・審査員特別賞：レアチーズとゼリーのクレープ包み



グランプリ作品 ブルーベリーダコワーズ



準グランプリ作品 パフェ・ミルティュー



準グランプリ作品 ブルーベリームース



準グランプリ作品 ブルベイ (干菓子)

● アイデア部門

アイデア部門には 19 点の応募の中から、金賞 1 作品、銀賞 2 作品が決まった。金賞の作品「meet sweet kodaira〜ブルーベリーのお気に入り〜玉川上水」は、ぶるべーを型どり、ブルーベリー色のあんを包んだ、かわいらしい和菓子だった。イラストをもとに、国際パティシエ調理師専門学校、小平洋菓子組合の協力によりお菓子を作り、8月29日(水)、レシピ部門の2次審査と合せて、お披露目された。

- ・金賞：meet sweet kodaira〜ブルーベリーのお気に入り〜
- ・銀賞：ブルーベリー萬
- ・銀賞：青いカップケーキ



アイデア部門 金賞の和菓子



アイデアをもとに制作した作品

▽成果

審査会の来場者から、「地域の食材を使ったイベントに興味がある」、「いろいろなアイデアの作品が集まってよかった」などの声が聞かれた。また、審査会当日は、FM西東京により会場から実況で放送していただいたこともあり、大いに盛り上がった。

小平の特産品としてのブルーベリーを生かした商品開発の促進を通して、産業振興やまちづくり及び市内外への情報発信ができた。

▽事業費

410,973 円



入賞者の皆さんで記念撮影

産業まつり

▽目的

市内産業を広く市民等に紹介することで、産業の振興を図る。

▽主催

第24回2012年小平市産業まつり実行委員会

▽後援

小平市、小平市農業委員会

▽協賛

小平交通安全協会

▽事業概要

農作物品評会、植木花卉品評会、とれたて野菜の販売、野菜宝船の展示、小平市都市農業PR、工業製品展示、ものづくり体験コーナー、模擬店コーナー、ゲームコーナー子供広場、北海道物産即売、応援します！東北物産即売、小平ご当地グルメコンテスト、市制施行50周年記念ステージ（若手芸人によるコントショーほか）

▽実施日

平成24年11月10日（土）～11日（日）

▽場所

福社会館前市民広場周辺

▽来場者数

約65,000人

（10日：約35,000人、11日：約30,000人）

▽実施状況

● 模擬店などの様子

福社会館の駐車場は、商工業者による模擬店や、北海道・東北物産の即売などがところ狭しと並んだ。売り子たちの威勢の良い声があちこちから聞こえ、大勢のお客さんで大賑わいだった。また、市民広場では農産物の品評会出品物の一般観覧が行われ、その販売と、野菜宝船の野菜の配布には、長蛇の列ができた。



会場の様子

● 小平ご当地グルメコンテスト

産業まつりと同時開催した「小平ご当地グルメコンテスト」は、好天にも恵まれ、多くの方が来場され、午前中に完売となるお店が続出し、大盛況となった。

◇ 出店

喜楽鮎、(株)東京かじの、菓子屋イコナ、いろりの里、杏's cafe、
タウンキッチンくみはち、BREADFACTORY510、フレッシュ多摩まるやす、
国際パティシエ調理師専門学校、和菓子玉川屋 計10店

◇ 内容

自慢料理(200円から300円)を味わい、オリジナルコインで投票

※投票した方は、小平特産品のブルーベリーを使用した商品などが必ず当たるくじ引き付き

◇ 審査方法

「たくさんあります!小平の魅力つたえ隊」に任命されているお笑い芸人のLLRさんたちが特別審査員となり試食を行った。料理を購入した方の投票と特別審査委員による投票を集計し、決定した。



コンテストの様子



投票の様子

◇ 審投票結果

1位から5位まで約20票差の大接戦を繰り広げ、総得票数3,384票中、412票を獲得した「タウンキッチンくみはち」がグランプリに輝いた。

第1位: タウンキッチンくみはち「カレー菜ライスコロッケ」 : 412票

第2位: 菓子屋イコナ「小平ブルーベリーエクレア」 : 395票

第3位: 杏's cafe 「ブルーベリーぜんざいの杏仁豆腐」 : 394票



特別審査員による試食



グランプリ「カレー菜ライスコロッケ」

● 舞台の様子

産業まつり会場では、舞台のアトラクションも盛り沢山あった。10日には小平市制50周年セレモニーと題して、よさこいやお笑いステージ（だいなお）、ブラスバンド演奏などが行われた。また、ゆるキャラ撮影会にはゆりーとコダレンジャーも登場し、観覧席には多くの親子連れが駆けつけ、その周囲も立ち見客でいっぱいになっていた。11日にはお笑いステージ（LLRほか）や学童農園の成果発表、グルメコンテスト審査発表等が行われ、終日賑やかだった。今回、産業まつりで初めて大きなステージを使用したのが、子どもにも楽しめる、盛りだくさんの内容で、多くの来場者が満足している様子が伺えた。



学童農園成果発表



地域宣伝隊コダレンジャーが活躍

▽成果

市制施行50周年記念事業として、今年度は「第1回小平ご当地グルメコンテスト」や市制施行50周年ステージを設置し、各種イベントを開催するなど、規模を拡大して実施したこともあり、例年より来場者が多く、大盛況だった。小平では初めての取組となった「第1回小平ご当地グルメコンテスト」では、小平市の食材を活用し、ご当地グルメを開発し、市内農業・商業の活性化を目的に実施したところ、市内10店が出店に協力していただき、来場者からも高い評価を得ることができた。

▽事業費

1,000,000円